

総 合 評 価 (評価の視点)	①施設を利用する人に対し、平等な利用の確保及びサービスの向上が図られたか。	当該項目については、事業計画書どおり又はそれを上回る水準で業務が行われていたことが確認できた。 【利用者サービスに関すること】 ＜ホール関連サービス＞ ・様々な利用者に情報が届くよう、ホームページの構成を見直すとともに、チラシ・ポスターに加え、チラシラック横にモニターを設置し出演者インタビュー動画を放映するなど、積極的な広報活動に取り組んでいた点を高く評価する。 ・幼児からシニア、障がいのある方など、誰もが安心して文化芸術に触れられる機会の創出に向け、包摂的な企画運営及び環境整備が行われている点を高く評価する。 ＜図書館関連サービス＞ ・大和市立図書館が担う公共図書館の役割として求められる基本的サービスのひとつは、誰にでも居心地の良い環境づくりや安心して過ごせる居場所の提供を図ることであり、そのためには、図書館利用者の特性をよく理解し、状況に応じたきめ細かな対応をすることが求められる。そうした中で、「大和市こもりびと支援条例」にもとづき、大和市福祉総務課が推進する「こもりびと支援策」と連携し、こもりびとへ図書館業務に従事する環境を提供していることは、他者との関わりや交流関係を持ちづらいこもりびとの社会参加への一助となる一例として効果的な取組であるとともに、図書館にとっても様々な背景や課題を抱える利用者の特性を理解することにつながる好事例になっているものと高く評価する。 ＜学習センター関連サービス＞ ・ポラリスアリーナの個人利用について、予約システムの導入により利用者の利便性が向上したこと。また、指定管理者が、アリーナを使用する登録団体と密接にコミュニケーションを取り、ニーズを捉えた上で運営方法を修正したことは、ともに利用者の満足度向上に繋がる取組であり、高く評価する。 ＜屋内こども広場関連サービス＞ ・チケットの完売状況や広場の混雑状況をSNSで気軽に確認できるようになり、利用者の利便性の向上や混雑状況の問合せに対応するスタッフの負担軽減につながり評価する。また、イベント情報を広く発信することで、利用者の満足度向上につなげるなど、SNSの特性を生かした取組は高く評価する。
	②施設の効用が最大限に発揮された事業運営が行われたか。	当該項目については、事業計画書どおり又はそれを上回る水準で業務が行われていたことが確認できた。 【利用者サービスに関すること】 ＜ホール関連サービス＞ ・指定管理者の記述の他にも、公演中の災害発生を想定した来場者参加型の「避難訓練コンサート」を実施し、防災意識の向上と災害時における施設スタッフのスキル向上を図った。コンサート形式により市民が参加しやすい事業とした点に創意工夫が認められ、利用者の安全・安心および施設の信頼性向上に寄与した点を高く評価する。 ＜図書館関連サービス＞ ・新たに横浜F・マリノスと連携した健康イベントや社会福祉協議会との連携事業など、本や読書への関心を高めることや、新たな利用者層の開拓として図書館への来館のきっかけになるような様々な事業を、こどもから大人までの幅広い世代へ向けて精力的に展開することによって、図書館の更なる利用促進につなげていた点を高く評価する。また、本館だけでなく、各図書館が互いの特色を生かしながら地域の各種団体との連携事業を行うことによって、地域全体の魅力や価値を高め合うなど、地域における拠点施設としての機能を十分に果たしていたことも評価する。 ＜学習センター関連サービス＞ ・「シリウスみんなのごはん」や「シリウスボードゲーム」などは、地域の団体や人材と協力して、高齢者等の居場所づくりや世代間交流など、地域の課題に対応する良い事業であり、今後もこうした事業が拡充されることを期待する。 ＜共通事項＞ ・大和市の文化を育む拠点として、やまとみらいまつり、やまと市民まつりなど各種連携事業を実施し、概ね事業計画書どおりの水準と評価する。中でも、やまとみらいまつりでは、12イベントで2,532名(令和6年度は8イベントで1,781名)と非常に多くの参加者があり、まさに文化の日を彩る一大イベントとなった。管理運営では、市民ボランティアのやまとみらいパートナーを参画させるなど、市民が関わる仕組みを定着させていることも評価する。さらに、文化創造拠点内での連携・融合に留まらず、「渋祭」や「中央林間手作りマルシェ」、「連合自治会の秋祭り」への参加など地域との連携を積極的に展開している点を高く評価する。
	③施設の適切な維持及び管理が行われたか。	当該項目については、事業計画書どおり又はそれを上回る水準で業務が行われていたことが確認できた。 【施設の維持管理に関すること】 ・指定管理者として、大規模災害時の備えのため、スタッフ研修や図上訓練に加え、火災想定避難訓練、消防設備研修も定期的に行い、災害対応のシュミレーションに積極的に対応している中で、新たに震度5の大規模地震発生時における建物使用可否を応急的に判断するための「危険度簡易判定シート」を作成し、今後の対策として活用を図ることを高く評価する。
	④施設に管理を安定して行う人員、資産その他の経営の規模及び能力を有しているか。	当該項目については、事業計画書どおり又はそれを上回る水準で業務が行われていたことが確認できた。 【運営組織に関すること】 ・職員の育成において、業務に必要な専門知識を取得するとともに、ステップアップ研修では、「想像力を鍛えるワーク」や「お客様の真意を探るワーク」など、実際の接遇場面を想定したトレーニングを行うことで、実践力の強化につなげている点は、来館者からの声として好意的な意見が寄せられることにつながっていると捉えている。さらに、令和7年度は新たに、接遇セルフチェックシートを導入し、スタッフ各自が業務改善に向けたセルフチェックに容易に取り組める仕組みとしたことによって、組織全体の底上げにつながる効果を生み出している点や、施設間あるいは、本館と地区館間での競争意識を生み出し研鑽を積む仕掛けにしている点などを高く評価する。 【経費に関すること】 ・国際情勢の不安定化により、光熱費の高騰が継続している中、省エネルギー化への取組として、ボイラーをこまめに停止するという着想が非常に画期的であり、結果的に大幅な経費縮減を果たしている点を高く評価する。また、様々な事業を積極的に展開し、増収につながる取組を実施している点を評価する。